

みやぎ県南中核病院神経内科

平成 29 年後のみやぎ県南中核病院は渋谷、宮澤、菅野、大嶋の常勤 4 人と後期研修医 1 年目の松原で診療にあたりました。初期研修医 1 年目も例年どおり 8 名全員が神経内科をローテーションし、スタッフ一丸となり神経疾患の魅力を啓蒙、伝道したつもりです。東北大学からの学生実習も例年どおり 20 名程度受け入れております。実習に来た学生に感想をもとめると「大学とは疾患が全くちがう、脳卒中がこんなに多いとは、高齢者がこんなにも多いとは」意外に様な発言でほっとします。

トピックとしては 30 年 7 月から、標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することにしました。下の文章は私が院外向け広報誌に記載したものです。

“ わが国で「神経内科」の標榜が許可されたのは 1975 年です。当時は神経内科医師も少なく、神経内科講座が設置されてない大学も多くありました。従って当時は脳卒中、てんかん、頭痛などのコモンディーズだけでなくその他の手術適応のない神経疾患を含めて多くは脳外科医が診療にあたっておりました。一方、神経内科は主に大学や旧療養所系の病院で変性疾患や免疫疾患を中心に診ており、一般病院診療との関連は今と比べてとても薄い状況でした。

しかし時代は変わりました。神経内科医が少しずつ増加するとともに神経疾患の診断治療は格段に進歩し複雑化しました。その結果、神経症状を呈する疾患はまず神経内科が対応し、必要に応じて脳外科に紹介するようになりました。

一方、いまだに「神経内科」は心療内科や精神科と混同されることがあり、神経内科の担当する疾患が知られていない状況もあります。神経内科で対応すべき患者さんが神経内科を受診されずに、診断がつかない状態が長く続いたり、適切な治療のタイミングを逸したりすることがあります。

今後、標榜診療科名を「脳神経内科」に変更することにより、脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療する科であることがわかりやすくなります。また、診療内容が広く世間に一般にしられている「脳神経外科」の内科側のパートである位置づけが明確になります。

診療標榜科名の変更は日本神経学会から臨床現場への要望でもありますが、当院の神経内科としてもこれを受け入れることにいたしました。

以上の経緯により、当院では 7 月から「神経内科」から「脳神経内科」に変更致します。略称は「脳内科/のうないか」が「脳外科/のうげか」との対比で良いかと思えます。呼び名は変わりますが診療内容はいままで通りで変わりありません。脳卒中、頭痛、認知症、てんかんはもとより運動障害や認知機能障害がありそうな患者さんがおりましたら（ハズレでもかまいません）今までどおり「脳神経内科」にご一報ください。” 今後ともよろしく御願いたします。

(渋谷)

2. 外来患者数：総患者数 8,433
3. 退院患者数：567
4. 剖検数：1
5. 論文総説：英文 3 編、和文 1
6. 学会発表：国際学会 2、国内 4
7. 研究会講演会の発表：5

8. 助成金 : 0

